

「ぬくもりを届けたい、手から心へ」

たまちゃん通信

令和5年5月発行 No. 365

発行：日本のお手玉の会事務局 〒792-0023 愛媛県新居浜市繫本町8番565号

新居浜市市民文化センター別館1階

Mail: horbu@otedama.jp Tel: 0897-47-6148 FAX: 0897-47-6149

シンポジウム「未来のお手玉」余話 その7

多くの人を魅了するお手玉遊び世界への飛翔③(山本清洋)

～お手玉遊び大会の魅力 その3～

全国お手玉遊び大会では30年にわたりお手玉遊びの競技が繰り広げられてきました。令和5度の大会でも、熱気に包まれた会場で、プレイヤーは、身体全体に流れるリズムに合わせてお手玉を揺り上げ、空



中を舞うお手玉を目で追い、心を無にして規定時間をクリアすべくプレイしていました。

競技なので戦う相手がありますが、作戦を立て相手を攻略し打ち負かすのではなく、与えられた時間をクリアすることに心を集中させます。実際は戦う相手はコートの中に居ますが、プレイヤーの心の中には戦う相手はいません。そこには揺れる

お手玉と遊び興じる自分がいるだけです。(写真：団体戦でお手玉ゆりに一所懸命に励む選手たち)

お手玉遊び競技は、規定時間への挑戦なので、競技の途中で失敗し、「負け」の判定を下された時に、なぜか「悔しい」という表情よりも「どうして失敗したのという不可解さ」とか「失敗したことへの驚き」の表情が多くみられます。「しまった」とか「仲間へのごめん」という気持ちはあっても、「苦笑にも似た笑い」が生まれ、仲間の「和やかな空気」がプレイヤーを迎えてくれます。

お手玉を愛好する者は技術の巧拙にかかわらず選手になれる

お手玉のチームは、1番手から5番手までの5名で構成され、番手が上がるごとにむずかしい種目になります。注目すべきは、1番手の「両手2個ゆり」は、初心者でもできる種目です。

したがって、全国お手玉遊び大会では、お手玉を愛好する者は、技術の巧拙にかかわらず選手になれる機会があります。スポーツ競技は、体操競技や飛込競技などの採点競技であっても、予選を勝ち抜いた強い選手、じょうずな選手でないと選手にはなれません。

全国大会をスポーツ競技ではない遊び文化の競い合いとして位置づけ、お手玉愛好者全員に出場の機会を保障するという日本のお手玉の会の叡智は、今後も残したいものです。「ぬくもりを届けたい、手から心へ」(日本のお手玉の会副会長・NPO法人日本子どもと伝承遊び学会会長)